

## 令和 5 年度 事業報告 総括

井深大初代理事長の理念に基づき、昭和 48 年 6 月に設立された希望の家も創立 50 年を迎えることができました。これもひとえに職員の諸先輩方や利用者、保護者等、様々な関係者皆様のお力添えあってのもので、大変感謝しております。創立 50 周年を祝う式典等は、まだ新型コロナウイルス感染症の影響もあり開催しませんでした。希望の家の歴史と現在、そして未来に向けた展望をまとめた記念動画を作成しました。法人をよりよく知ってもらうため見学者や実習生に見ていただいたり、職員募集のコンテンツとして利用したりと積極的に活用していきます。そして、利用者の皆さんには、いつもより豪華な食事とクッキーやケーキを提供し、職員には一律に祝金を支給しました。これからも希望の家の歴史を繋いでいくため、創立 100 年に向けて職員と利用者が共に助け合いながら歩んでいきたいと思えます。

新型コロナの感染者数減少や症状の軽症化を受けて、位置付けが令和 5 年 5 月に 5 類に移行しコロナ禍以前に戻りつつあるなか、希望の家でも徐々に連休時の定期帰宅や行事の日帰り旅行、運動会等を再開しました。ただ、新型コロナによる行動制限はなくなりましたが、インフルエンザが数年ぶりに流行し、救急搬送や隔離対応で大変な目にあったこともあり、感染対策を日常的に行う等、慎重に行動していきます。

決算報告においては、新型コロナによる事業所休止等もなく障害福祉サービス事業収入は順調に確保し、物価高騰によって支出が増える状況のなか経費削減等に努め、黒字となりました。作業状況は、武子・日向ともりサイクル作業が減少し、それを補うための新規作業の開拓に苦勞しました。幸いいくつかの作業が確保でき、令和 6 年度以降の作業収支の改善に繋がると期待しています。特に JSP 班は年間を通じて生産数が多い状況が続き、年度末には特別工賃を支給して利用者の頑張りに報いることができました。逆にパン班は、担当支援員の退職と材料費の高騰を売価に転嫁しにくいといった影響もあり、令和 6 年度から一時休止することを決めました。ただ、美味しいパンを焼くことができる人材を探して、いずれ再開することを目指します。

希望の家の歴史 50 年のなかで 40 年以上も利用されていた方 4 名を含め、7 名の利用者が他界されました。ご冥福をお祈りいたします。高齢の方が占める割合が増えたことで、当然亡くなられる方や体調を悪くして入院する方が増えました。そして、通所利用者の保護者も高齢の方が増えて、施設への入所の相談を受ける機会も多くなり、7 名の方が入所されました。

職員においては、採用 11 名・退職 13 名となりました。退職者は、再雇用や再々雇用の職員が年齢や体力低下を理由にする方が多く、新しい道に進みたいという方も一部いました。利用者支援に欠かせない支援員の確保は大変重要ですので、あらゆる手段で支援員確保に努め、取り組んでいきます。

障害者虐待防止及び身体拘束の適正化等の権利擁護の徹底に加え、感染症流行時や災害時の事業継続計画（BCP）の策定等が未実施だった場合の報酬削減等を行うことが示されました。実施して当然の内容であり、委員会を発足する等準備してきましたが、あらためてきちんと向き合い、継続して取り組みながら内容を充実させていきます。